

10月22日の南日本新聞で、本校5年生の稲刈り体験活動の様子が紹介されました。稲刈りをしているのは、山川さん。湯川さんや黒さんが後ろで心配そうに見ています。

次は、10月29日に開田の里で脱穀作業です。

さて、何キログラムのお米が収穫できるか、とても楽しみです。

2019(令和元)年

10月22日

火曜日

旧暦9月24日

友引

即位礼正殿の儀

日月火水木金土

29 30 1 2 3 4 5

6 7 8 9 10 11 12

13 14 15 16 17 18 19

20 21 22 23 24 25 26

27 28 29 30 31 1 2

さよの歴史

1937(昭和12)年

南日本新聞

詩人の中原中也死去

昭和期の詩人、中原中也が髄膜炎のため30歳の若さで死去した。フランス象徴派に傾倒、虚無と倦怠(けんたい)を抱え、哀愁を帯びた詩を発表した。詩集には「山羊の歌」(34年)のほか、没後に評価を受け刊行された「在りし日の歌」がある。



◆児童が稲刈り体験  
志布志市の有明小学校で11日あり、5月に校内の小鳥小屋跡に作った田んぼ(約30平方メートル)に植えた稲を5年生23人と保護者らが収穫した。実家が農家の保護者が稲刈りのや

り方を手ほどきし、児童は鎌を使って黄金色に実った稲を刈り取った。収穫した稲は掛け干しで2週間ほど乾燥させ、児童自ら脱穀する。精米後、11月の宿泊学習で食べる予定で、土橋ゆめのさんは「実っては良かった。おいしいお米になってほしい」と笑顔だった。